発掘（はっくつ）って遺跡（いせき）だけじゃない！
コモンジョ（古文書）を発掘して「昔」から自分のことを発見してみよう

古文書発掘に役立つ資料２

城、神社仏閣、仏像などの形

城や神社、お寺、仏像など、古文書を見る時に役立つ資料です。
古文書に書かれていることがあったり、城跡の資料館や神社、お寺などに古文書が多く保管されたりしています。
参考にして、より深く学んでみましょう。

出典『歴史手帳』（吉川弘文館）

武蔵野大学古文書研究室

この冊子は、独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金
令和4年度助成活動により作成したものです。

城

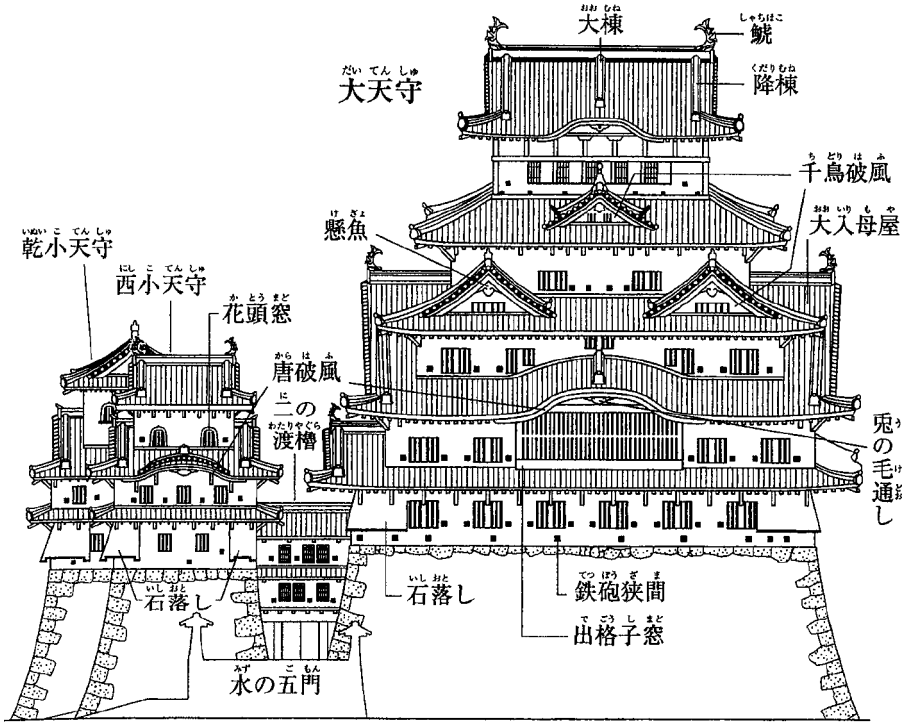
城の形の例

もともと城は、古代から江戸末期までに平地や丘陵、山を利用して築かれた敵からの防御と攻撃をおこなうための建物やそのまわりを固めた建造物です。

大和朝廷時代にはすでに城は建造されていたので、城の歴史はとても古いのです。

城というと、下の図のような城を想像しがちですが、これは中世から明治時代までに築かれたものです。目的は、その地域を治めていた武将たちが敵対する他の武将から守るため、また自分の権力の強さを表すために造られたものです。

下の図は、国宝にもなっている有名な「姫路城」の一部、天守閣（城の中でもっとも高く重要な建物）がある建物です。



姫路城天守南立面図

城を守る　石垣（いしがき）

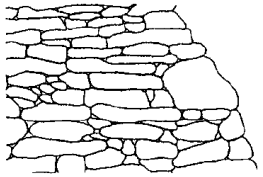
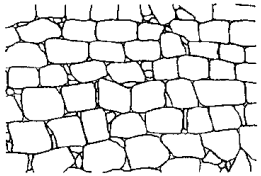
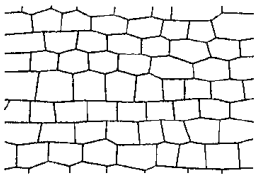
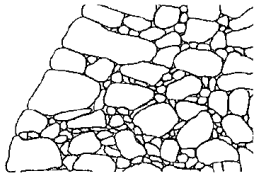
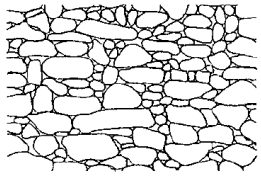
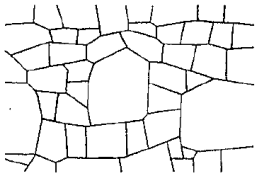
城は、普通の家のようにそのまま建っているというものは少なく、特に中世以降の城は、石垣で囲われています。城を守るために石垣を造り、外からの敵の侵入を防くためです。

石垣の石は、それぞれ造られた地域の石を活用することが多いのですが、他の地域からわざわざ持ってこさせ、権力の象徴として積み上げさせたものもあります。その中でもっとも有名な石垣は、江戸時代の象徴である「江戸城」でしょう。

石垣には、崩れないためのいろいろな工夫や技法が使われています。そのため、現在も当時の姿のまま残っている石垣が多くあります。

下の図は、その代表的な種類です。

形は少しずつ違いますが、共通しているのは、すべて人の手によって石が運ばれ、割られ、積み上げられて造り上げたということです。

	野面積 自然石を加工せず積む	打込接 接合部を加工して間詰石を打ち込む	切込接 切石で隙間をなくす
横目地が通るように石材を積む 布積	浜松城 	伊賀上野城 	新発田城 
不揃いの石材を積む 乱積	宇和島城 	肥前名護屋城 	讃岐高松城 

石垣の代表的な種類

お城を守る　堀（ほり）　虎口（こぐち）　馬出（うまだし）

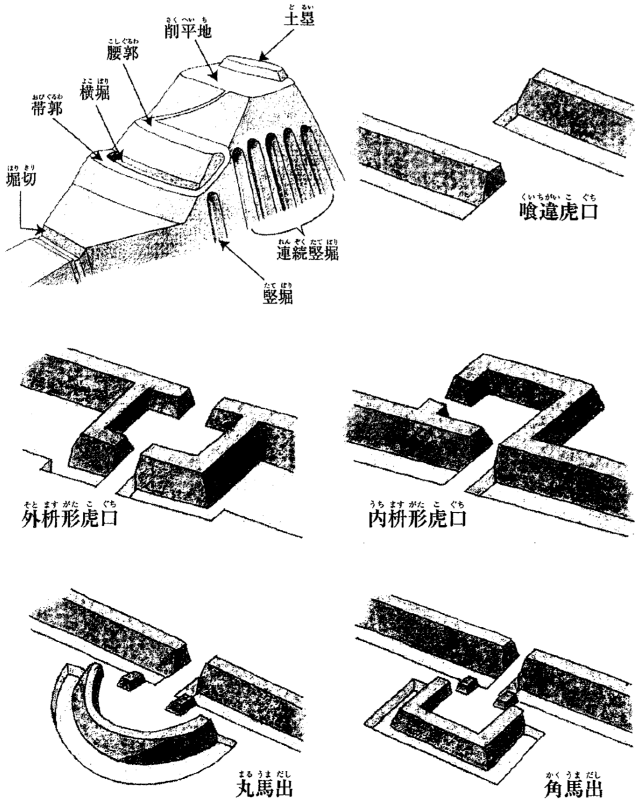
城を守るものは、石垣のほかにもありました。

堀は、城の周りに掘られた溝（みぞ）です。この堀が深ければ深いほど、外からの侵入が難しくなります。水を張り池のようにした水堀（みずぼり）や何もないただの溝（空堀（からぼり））があります。

城に入る時に正面からまっすぐ入って来られないよう、出入口への道をわざわざ直角にしたり、堀をまたいで遠回りさせたりしたものが、虎口です。

出入口の外側に、もう１つ障害物を置いて、侵入しづらく、さらには攻撃もしやすくしたものが、馬出です。

このようにさまざまな工夫がなされ、城を守ろうとしたのです。



堀・虎口・馬出の代表的な種類

屋根や家のつくり

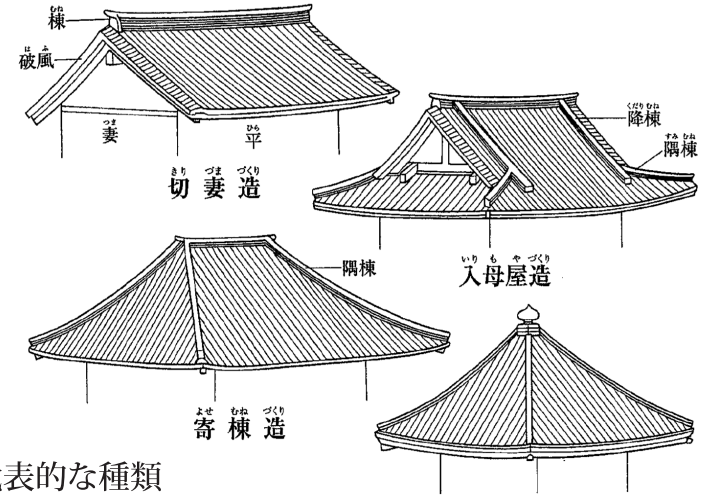
お寺や旧家の屋根の形

日本の古い家屋には、伝統的な形式で建てられたものがたくさんあります。今でもお寺や由緒ある家に多く残っています。

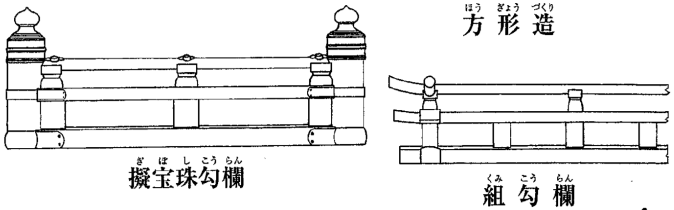
日本建築の美しさや風景や環境に合ったこれらの伝統美は、外国人にも評判となっています。

特に外から見てわかる屋根の形や勾欄（こうらん）、土台（どだい）の部分（＝基壇（きだん））を見てみましょう。

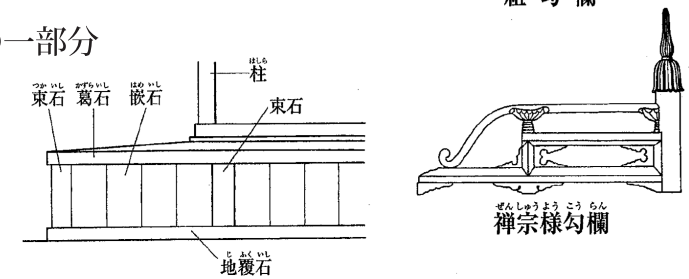
屋根の代表的な種類



勾欄の代表的な種類



基壇の一部分



お　寺

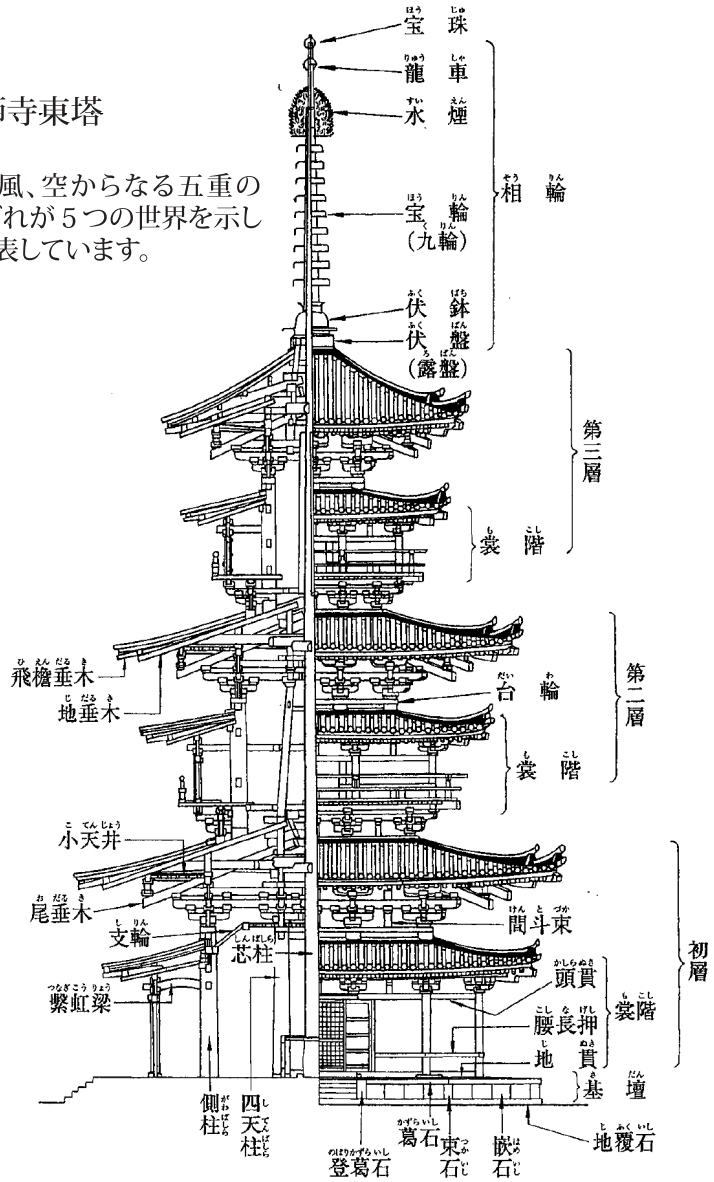
五重の塔の形

塔は、お釈迦様の舎利（しゃり・遺骨のこと）を納める墓のような建物で、同時に古くから仏教寺院では権威の象徴でした。

今でも国宝や重要文化財となっている立派な塔を見ることができます。

薬師寺東塔

下から地、水、火、風、空からなる五重の屋根を持ち、それぞれが５つの世界を示し仏教的な宇宙観を表しています。



仏像（ぶつぞう）

仏像は、仏教の仏様の姿を表した像です。とてもたくさんの仏像がありますが、その代表的なものを見てみましょう。

阿弥陀如来

救世観音

弥勒菩薩

増長天

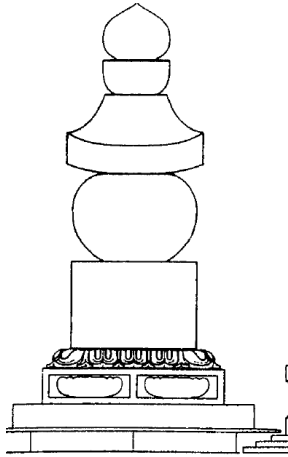
不動明王

蔵王権現

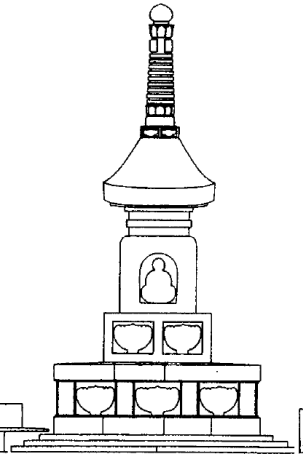
仏塔（ぶっとう）

仏塔は、もともとは五重塔などと同じようにお釈迦様の遺骨を納めるための塔でしたが、そこから亡くなった人の供養のために建てられるようになりました。

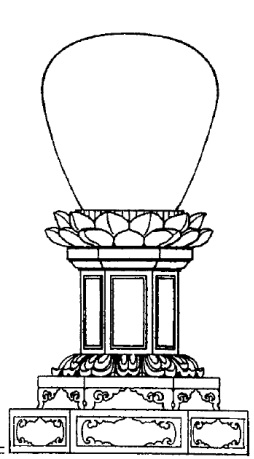
お墓の横や後ろに木で作られた「卒塔婆（そとうば、そとば）・塔婆（とうば）・板塔婆（いたとうば）」は、仏塔を簡単にしたものです。



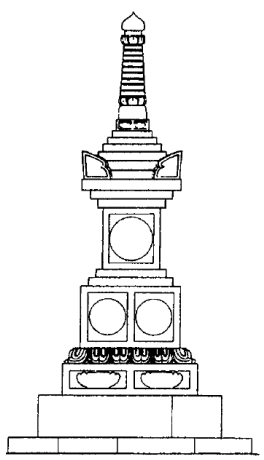
五輪塔



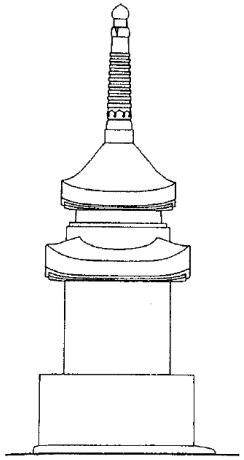
宝塔



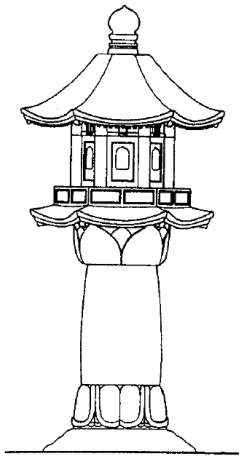
無縫塔



宝篋印塔



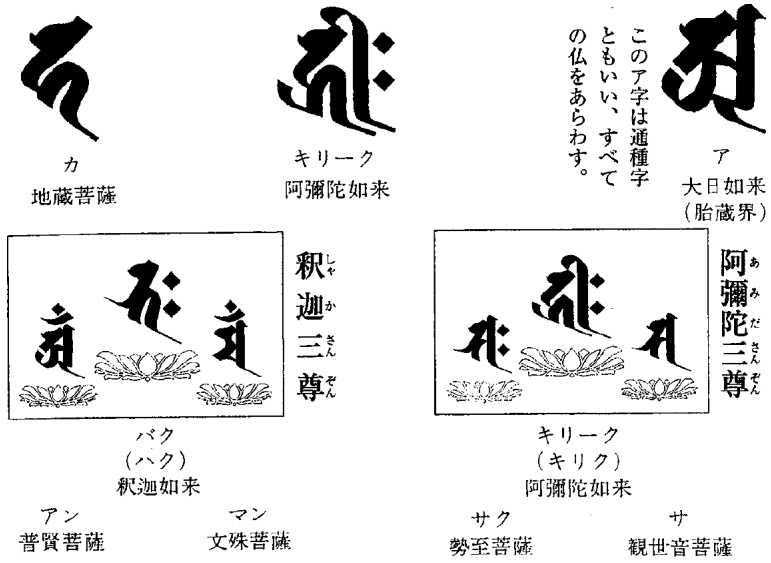
多宝塔

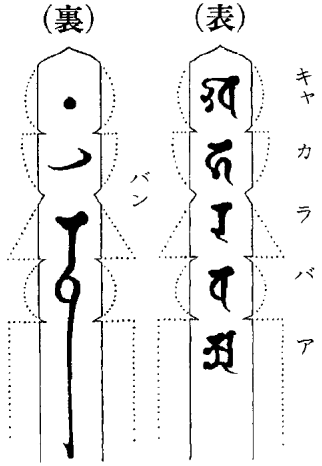


石幢

梵字（ぼんじ）

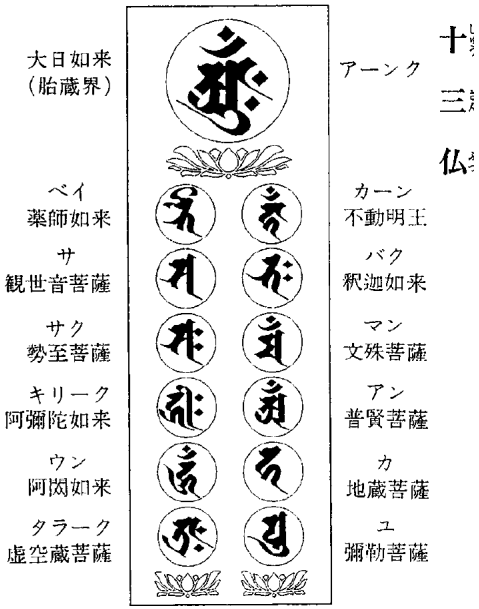
仏教（特に密教）でよく使われる文字で、サンスクリット語を表すため文字にしたものです。





板塔婆

五輪塔の「空・風・火・水・地」をあらわす「キャ・カ・ラ・バ・ア」



神　社

神社のさまざまな形

神社は、日本特有の宗教である「神道」の信仰により、神様を祀（まつ）ったり、感謝や祈りをささげたり、儀式を行うための建物です。

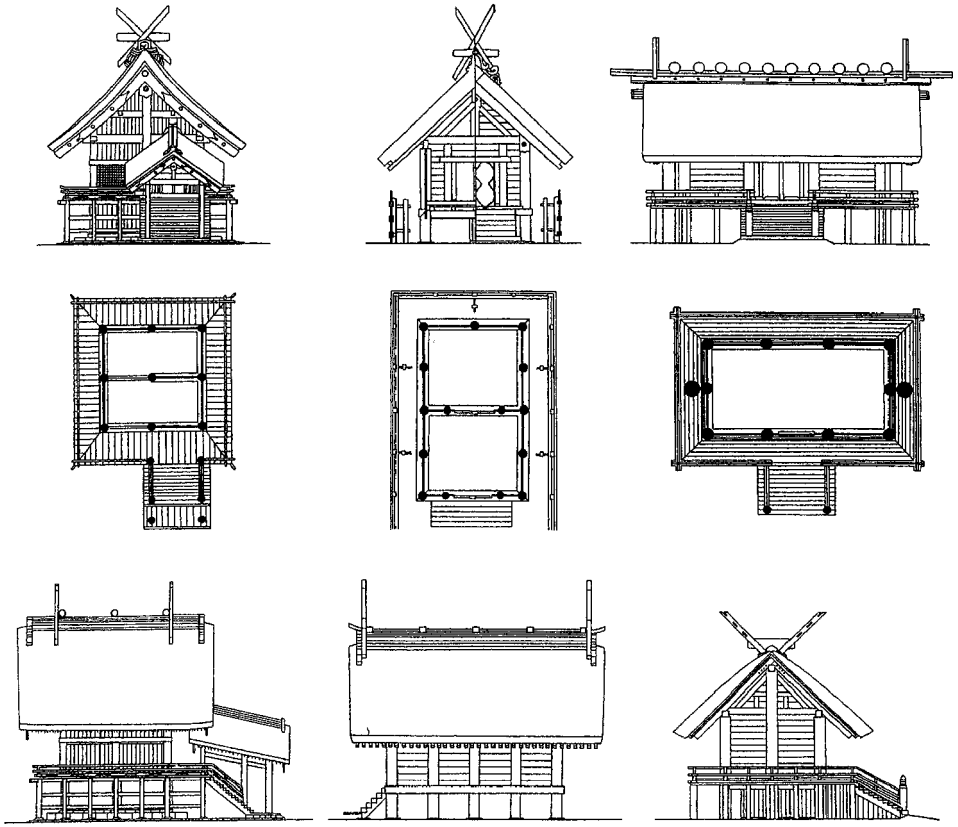
日本全国には、２０万社を超える神社があると言われています。

神社の名称の最後につく社号は全部で６つ、「神宮」「宮」「大神宮」「大社」「神社」「社」があります。

また、それぞれに建物の形に特徴や違いがあります。

どこの町にも必ずあるので、見てみましょう。

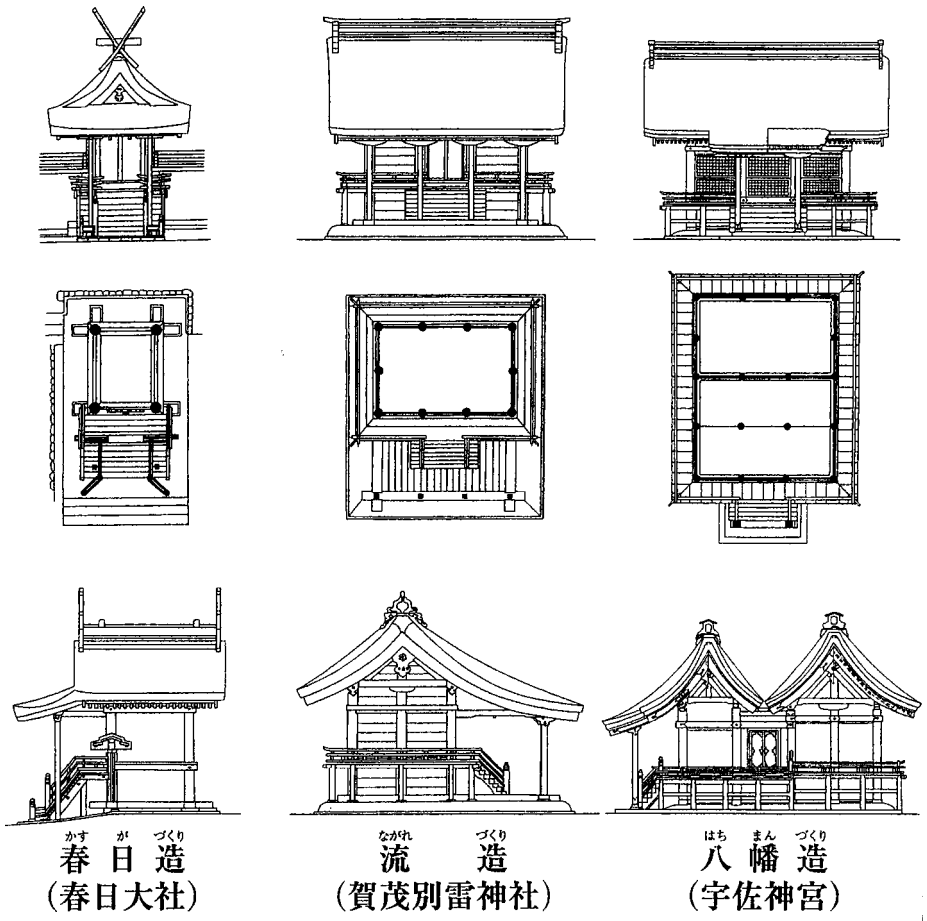
神社建築の代表的な例



大社造（出雲大社）　住吉造（住吉大社）　神明造（伊勢神宮内宮）

神社の名前から、祀っている神様に違いがわかります。もともと日本の神様に対する考え方は、「八百万（やおよろず）」と言われるように山、森、海、風などの自然界、土地、実在した人物、動物などさまざまなものに神様が辿るという考えに基づくものです。

また古くは、神仏習合といって寺と神社が一体化したようなこともありました。お寺の敷地内に神社があったりするのは、そのためです。

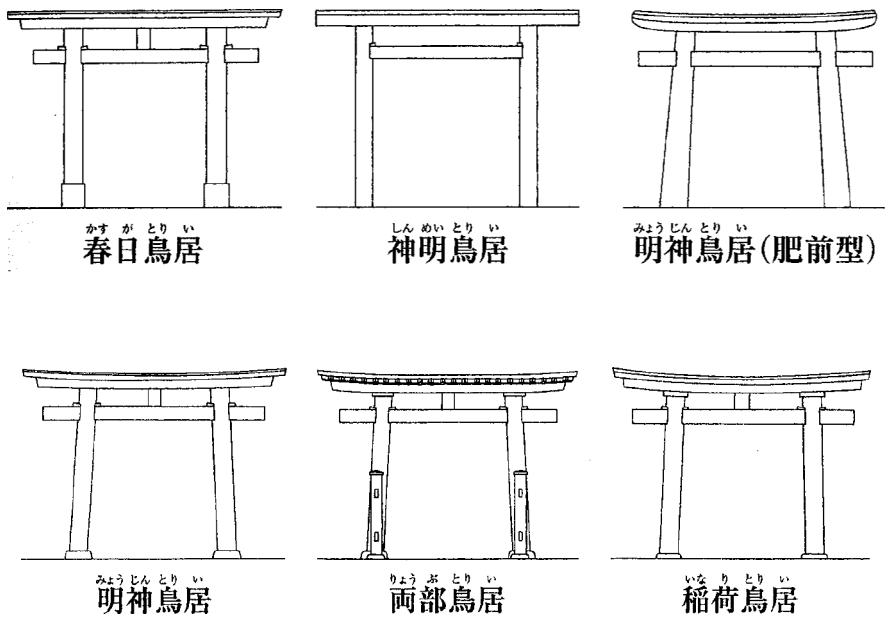


鳥居（とりい）

鳥居は、神社であることを表す建造物です。神社の内と外を分ける境に立てられますが、神殿（本殿）を持たない、山などの自然物を御神体としてお祀りしている神社の中には、その前に鳥居が立てられ、神様の存在を現すものとしています。

鳥居は神殿同様に、お祀りしている神様や神社の意図するものによってさまざまな形があり、６０種類以上ともいわれています。

大きく分けて、鳥居上部の横柱が一直線になっていて、上から２番目の横柱がはみ出ていない「神明（しんめい）鳥居」と、横柱の両端が上向きに反っていて、２番目の横柱がはみ出ている「明神（みょうじん）鳥居」の２種類があります。

神明鳥居は、自然木をそのまま使うことが多く、シンプルな感じです。伊勢神宮が、これにあたります。

一方、明神鳥居は、額に社名が書かれていたり、朱色で全体的に派手な雰囲気です。稲荷（いなり）神社がこれにあたります。